

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	岐 阜 県
-------	-------

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	恵那郡山岡町立山岡小学校					フロンティアティーチャー		宮本 雅江	
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	1	13	21
児童数	50	63	52	46	60	57	3	331	

研究の概要

1. 研究主題

<p>「自ら求め、ひびきあう授業」の創造 ~ 児童一人一人の実態に応じたきめ細かな指導の工夫改善 ~</p>
--

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>少人数指導(算数・国語)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5年算数・6年算数 学校として当該教科に関する研究実績があるため ・2年国語 これまでの研究成果と児童および保護者に対する実態調査の結果から実施学年・教科の枠を広げ、研究に取り組むため <p>教科担任制(社会・理科・体育・図工・家庭の5教科)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5年・6年 専門性を生かした指導の成果が得やすい学年であるため
--

(2) 年次ごとの計画

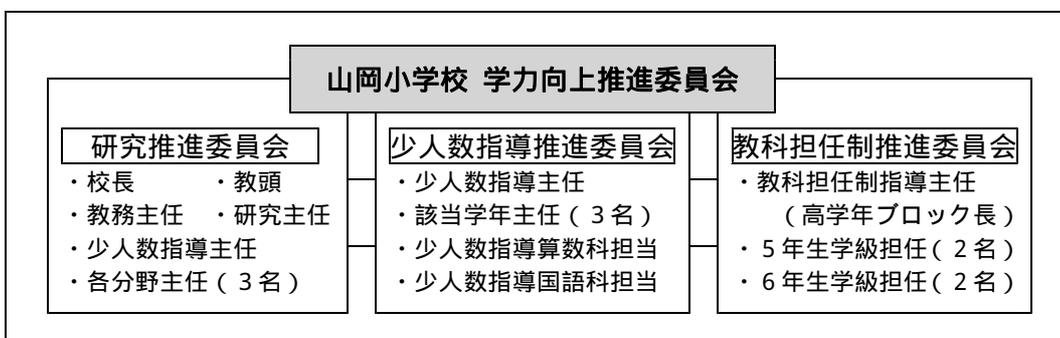
平成14年度	<p>テーマ 児童一人一人の実態に応じたきめ細かな指導 ~ 確かな学力を育む指導方法の工夫改善を通して ~</p> <p>仮 説 少人数指導や教科担任による指導で、児童一人一人の実態に応じたきめ細かな指導を行えば、確かな学力を育てることができる。</p> <p>研究内容・方法 「少人数指導」による指導の工夫改善 「教科担任制」による指導の工夫改善 「評価」を生かした指導の工夫改善</p>
--------	---

平成15年度	<p>テーマ 「自ら求め、ひびきあう授業」の創造 ~ 児童一人一人の実態に応じたきめ細かな指導の工夫改善 ~</p> <p>仮 説 評価規準を位置付けた単元指導計画を作成し、児童一人一人の実態に応じた課題や教材を工夫し、「指導と評価の一体化」を図った学習活動を工夫すれば、確かな学力を育てることができる。</p> <p>研究内容・方法 評価規準を明確にした単元指導計画の工夫改善 個に応じた指導方法・指導体制の工夫改善 評価を生かした指導の工夫改善</p> <p>*変更事項： , は、研究内容の文言を簡潔にした。</p>
--------	---

は、昨年度の計画では、「児童一人一人の実態」に応じた学習活動の工夫改善であったが、本年度の文部科学省及び県のフロンティア事業の方針を受けて変更した。

平成 16 年度	<p>テーマ 「自ら求め、ひびきあう授業」の創造 ～の実態に応じたきめ細かな指導の工夫～</p> <p>仮説 前年度作成した評価規準を位置付けた単元指導計画を一層工夫改善し、児童一人一人の実態に応じた指導方法や指導体制を工夫したり、「指導と評価の一体化」を目指した指導のあり方を探求したりすれば、児童一人一人に確かな学力を育てることができる。</p> <p>研究内容・方法 評価規準を明確にした単元指導計画の工夫改善 個に応じた指導方法・指導体制の工夫改善 評価を生かした指導の工夫改善 (サブテーマは、変更する可能性あり)</p>
----------------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

(1)成 果	<p>評価規準を明確にした指導計画の工夫改善に関わって</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各単位時間の評価規準を位置付けた指導計画を工夫改善することで、評価規準の具体が明らかになり、概ね満足できると判断される状況を目指し、よりきめ細かな指導に生かすことができた。算数科は、単位時間毎に「評価規準の具体(場・方法)」「十分満足できると判断される状況」「努力を要すると判断される状況の児童への手だて」を位置付け、前年度作成した指導計画の改善が図れた。他教科では、「評価規準の具体(場・方法)」「概ね満足できると判断される状況」「努力を要すると判断される状況の児童への手だて」を位置付けることにより、児童一人一人の実態に応じた指導が充実した。 ・各単位時間の評価規準を位置付けた指導計画の改善を図る中で、各教科とも作成の手順がわかり、単元や題材で付けたい力だけではなく、本時に付けたい力も明確になった。 ・各単位時間の評価規準を位置付けた国語科および算数科の年間指導計画を作成することができた。両方とも「十分満足できると判断される状況」を位置付けることができた。 <p>個に応じた指導方法・指導体制の工夫改善に関わって</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひびきあい(ねらいに直結する相互援助活動)のあり方を探ることで、教科の本質を踏まえたものの見方や考え方につながる「質の高い学び合い」が
--------	---

できるようになった。単元指導計画や学習指導案の中に「ひびきあいの姿」を位置付けたり、「ひびきあいを生み出す手だて」を位置付けたたりしたことは、一人一人の意欲、知識・理解、技能の向上や習熟に有効だった。

- ・少人数指導では、1学級を2つの学習集団に編成する方法により、2学級を3つの学習集団に編成する昨年度の編成方法に比して、児童が温かい人間関係の中で、意欲的に学習する姿が顕著であった。学級を基盤とすることで、ひびきあいの質も高まり、少人数とはいえ活発な意見交流が生まれた。(教師は、少人数担当と学級担任が担当)
- ・少人数指導では、教師・教室・集団を固定することなく、等質・習熟度別・興味関心別・方法別などねらいに応じて柔軟な学習集団編成を行った。集団編成にあたり、児童の自己選択を大切にすることにより、生き生きと学習する児童の姿がみられるようになった。

「少人数指導に関わる児童意識調査」(平成14年9月・15年度9月調査)より
Q 「少人数指導」になって、授業がよく分かるようになった。

	とても思う	思う	どちらとも言えない	思わない
平成14年度	36%	35%	24%	3%
平成15年度	37%	58%	5%	0%

- ・少人数指導では、一単位時間の学習過程が教師の共通理解のもとで推し進められ、教師の指導力の向上と児童の思考の深化と技能の習熟につながった。単元の終末の評価テストでは、国語科・算数科とも全国の平均点を大幅に上回る結果が出ている。
- ・教科担任制による指導では、児童が専門性の高い授業に意欲を示し、保護者からも賛同の声が高い。児童へのアンケートでは、「教科担任制になって授業が分かりやすくなった」と答えた児童が、81%に上った。(14年度は、68%)また、5年・6年の保護者へのアンケートでは、「教科担任制はお子様の学習にとって効果的か」という問いに対して、110名中102名が「はい」と回答している。
評価を生かした指導の工夫改善に関わって
- ・評価規準を指導に生かす「指導と評価の一体化」を目指し、児童一人一人に対するきめ細かな指導の充実が図られてきた。「本時のねらい・評価規準(場や方法を明示して)・課題・ひびきあいの姿・まとめ・自己評価」に整合性をもつ授業のあり方を追究してきた。特に、「予想される個の状況」を位置付け「それぞれの状況に応じた指導の手だて」を構想することにより、学習過程の中での評価を指導に生かすことができた。
- ・単元や題材の学習に対する全体的な見通しをもつ自己評価カードを児童が自己の伸びを実感できるように工夫改善することができた。また、自己評価カードは、少人数指導の習熟度別学習集団を選択する際、児童の自己選択のよりどころとなった。教師と児童がともに活用でき、本時の評価規準を取り入れた自己評価カードも開発されてきた。

2. 今後の課題

評価規準を明確にした指導計画の工夫改善に関わって

- ・教材研究を一層充実させ、今年度作成した各単位時間毎の評価規準を位置付けた国語科および算数科の年間指導計画を児童の実態に照らしながら、工夫改善していく。
- ・単位時間における基礎的・基本的な内容と発展的な内容を分析・吟味し、指導計画に位置付けて、よりきめ細かな指導に生かす。

個に応じた指導方法・指導体制の工夫改善に関わって

- ・より質の高い「ひびきあい」を目指し、相手や目的を明確にした必然性のある学び合い活動の充実を図る。
- ・確かな学力が児童一人一人に身につけてきた事実を通信や活動公開日を通じて具体的な言葉や児童の姿で伝え、保護者の理解が一層得られるようにする。

習熟度別学習に対する保護者の意識調査より

Q 習熟度別学習に賛成ですか それとも 反対ですか

	賛成	どちらともいえない	反対
平成13年度	2%	25%	73%
平成14年度	8%	63%	26%
平成15年度	52%	46%	2%

少人数指導の拡充に対する保護者の意識調査より

Q 将来的に少人数学習をいろんな学年・教科でしたほうがよい

	思う	どちらともいえない	思わない
平成14年度	92%	1%	7%
平成15年度	95%	3%	2%

【意識調査の結果から】

- * 15年度は、保護者への積極的な情報提供（通信による児童の生の声の伝達や懇談会での啓発活動など）をしたり、児童の育ちを実際に公開したりした結果、理解が深まってきていると考えられる。今後も情報を具体的に提供し、来年度はより高い理解を得られるように取り組んでいきたい。
- ・少人数指導の実践教科は、本年度と同様に国語科及び算数科とし、実施学年の拡充を図る。少人数のよさである「ねらいに応じた学習集団の編成が可能である」「一人一人に合った課題や教材が設定できる」の2点を大いに生かして、「評価を生かした指導が充実し、一人一人に確かな学力が身につく」ことを職員で十分に共通理解して実践研究を進めたい。また、来年度の実践を実践研究紀要としてまとめ、広く公表していきたい。
評価を生かした指導改善に関わって
- ・指導と評価の一体化を図るために自己評価カードを教師と児童がともに活用しやすいように工夫する必要がある。児童にも分かりやすい言葉で評価規準を位置づけた評価カードにする。また、本校で学力としてとらえている「学ぼうとする力」「学ぶ力」「学んで得た力」を具体的に位置付けたカードに工夫改善していく。
- ・個の累積の評価を大切に、評価方法を探求し、一人一人の学力向上に生かす。

学力等把握のための学校としての取組

- * 定期的な学力検査「標研式観点別学力到達度診断CDT - 」を年1回実施する。
- ・昨年度は、平成14年2月4日に国語・算数の2教科を全学年(全児童対象)で実施。
今年度は、平成15年2月24日に国語・算数の2教科を全学年(全児童対象)で実施。
 - ・教科毎に、個人・学級・学年別に分析し、指導の工夫改善に生かしている。
そして、2年間の累積結果で、「よさ」及び「伸び」が顕著な面は、その要因となった取り組みや学習活動を価値付け、教職員一丸となってさらに伸ばすように実践を進める。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- (1) 学力向上フロンティアスクール公表会(第2年次)を開催し、成果と課題を公表した。
- | | | |
|-----|--------------------------------|---------------|
| 日 時 | 平成15年11月11日(火) | 12:40 ~ 16:45 |
| 日 程 | 公開授業 (少人数指導国語2年1組・少人数指導算数5年1組) | |
| | 公開授業 (各教科指導11学級) | |
| | 分科会 (少人数国語分科会・少人数算数分科会) | |
| | 全体会 (実践発表) (指導講評 岐阜県教育委員会) | |
- (2) 学力向上フロンティアスクールに係る実践研究の成果と課題をホームページ上で公表し、随時更新している。(ホームページアドレス = <http://www1.ocn.ne.jp/~yamasyou>)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7~12学級
 13~18学級 19~24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無